

感染対策、業者支援など6項目要請

新型コロナ 共産党市議団が市長に緊急申し入れ



五十嵐禎子党地区委員長(左)と加藤鉦一市議団長(中央)が皆川治市長(右)に要請書を提出

申し入れは、

1、今後、急速な感染拡大が想定されることから、最大リスクを想定し、新型コロナウイルスを封じ込めるために強力な感染対策が求められ、

①市長が市民に対して、不要不急の外出を控えることを訴えること。

②各種集会や花見などの行事について、4月中は控えることを要請すること。

2、深刻な影響が広がっている市内事業者に対して速やかな支援が実施されるよう関係機関の総力をあげて対応すること。市が主催するイベントの中

止を求める場合は、直接・間接を問わず補償をセットで行うこと。

3、国に対して強力な財政支援を求めること。

4、急速な感染拡大に備えるため、検査、医療体制の強化、確立を進めること。

5、医療機関や介護福祉施設などが対応できる強力な支援、対策を国に求めること。

6、学校の閉鎖に伴う放課後児童クラブ等の長期開設に対し、現場の状況を聞き取り、人員、資機材の整備を進めること。

以上の6項目です。

市議団と市長・副市長が懇談

皆川治市長と山口朗副市長が応対し、市長は、「医療崩壊を招か

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

鶴岡市は「感染確認地域」に該当

当日、市の対策本部会議が開かれ、「感染確認地域」に該当することとなったことから、感染拡大防止策の新たな方針が定められました。

山形県「新型コロナ」2種類の相談窓口

不安に思う方

症状の有無にかかわらず…
新型コロナの
■わからないこと
■不安なこと
なんでも
おたずねください。

電話相談

新型コロナ相談窓口

・県庁
・総合支庁・保健所

感染が疑われる方



咳が続くし、体もだるい…
相談してみようかしら…

- 風邪症状・発熱が続いている
- 強いだるさ、息苦しさ
- 発症者と濃厚接触
- 海外から帰国直後 など

1 電話相談

新型コロナ 受診相談センター
山形県内 共通の電話番号
電話：0120-88-0006

2 必要な場合は 受診案内

新型コロナ 感染症外来
(必要な場合はPCR検査)

庄内地域で初の感染者が5日、鶴岡市在住の20代男性について確認されたことから、日

本共産党鶴岡市議団は6日、午後1時40分に鶴岡市長に緊急の申し入れを行いました。

がっている市内事業者に対して速やかな支援が実施されるよう関係機関の総力をあげて対応すること。市が主催するイベントの中

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市議団と市長・副市長が懇談

市立荘内病院 50床確保向け準備

指定感染症対策 人工呼吸器は20台以上を確保

新型コロナウイルスに対する市立荘内病院の対応について、市議

団の聞き取りでは現在、来院の際、正面入口にて問診（流行地への移動、渡航歴、風邪症状等）を行い、熱がある場合等は看護師が聞き取りをし、外来受診日であれば担当医師

と相談の上、情報の共有を行って診察をしているとのこと。発熱者については庄内保健所相談センターに連絡し、指示を受けて対応となります。

指定感染者の対策として、荘内病院では50病床、日本海総合病院の50病床と併せて100床の専門病床確保に向け、準備を進めています。



指定感染者の受け入れ準備が進む市立荘内病院

荘内病院では20台以上の人工呼吸器を準備し、主治医は内科が担当、病棟看護師が中心となつての対応を検討しています。

市内宿泊・飲食店 支援は当面延期

県内・市内感染者の確認受け

市が予定していた市民の市内宿泊、飲食店での利用促進を図る市独自の支援については、3月末に県内での新型コロナウイルスの感染者確認を受けて、当面延期することとしました。

この支援策については、党市議団に対しては市民から「全国的に感染が広まり、不安が迫る中で市民が、安易に宿泊利用できるの

や医療器具等は確保し

ています。医療用マスクについては準備はあるが、今後の入荷の目途が立たず不安が募っているとのこと。

休業補償などの支援策を

新型コロナウイルス対策で市議会全員協議会

鶴岡市内で新型コロナウイルスの感染者が5日1人、さらに6日1人の確認がされたことから、急きよ市議会全員協議会が7日開かれました。

当局から現状の説明の後、質疑では、PCR検査が進まないことなどが質されました。PCR検査は県衛生

研究所で1日の処理能力が80検体であること、濃厚感染の疑いのある人が優先されていることが説明されました。

共産党市議団からは、新年度に入って学童保育が過密になっていく実情が出され、地域の実情に応じ学校の空き教室活用や教師の

支援を図ることが述べられました。

さらに日帰り温泉施設の休業に対する休業補償を求め、市は指定管理の利用料金制になっていることから、休業期間の支援は検討するとしました。

感染者やその疑いのある人が自宅待機となる場合は、国保など休業手当の支給ができるよう市の対応を求めました。

7日の知事記者会見では、庄内地区で初めて、鶴岡市で感染者が確認されたことから、庄内保健所でも今後PCR検査の体制が図られることが説明されました。

南部保育園で開園式

旧朝陽四小跡地に移転改築

朝陽第四小学校跡地に改築された市立南部保育園の開園式が3日行われ、加藤鉦一市議と坂本昌栄市議が出席しました。

開園式は園の正面出入口で行われ、皆川市長が「未来を築く子どもたちの健やかな成長を支える役割を担い、子育て支援の充実に取り組みでいく」と挨拶し、関係者によるテー

プカットが行われ地域の中で愛される施設となるようスタートしました。

旧南部保育園（美原町）は1973年（昭和48年）に新日本婦人の会会員や住民の要求で開園し47年が経過、園舎の老朽化に伴い17年から陽光町地内に移転新築工事を進めてきました。

新園舎は鶴岡産木材を使用し木のぬくもりを感じる建物が完成しました。

一時預かり・病児保育も

南部保育園では0〜5歳児までの各保育室

や、ステージのある遊戯室、厨房、医務静養室、厨房、職員室、会議・研修室、一時預かり保育室、病児保育室、発達支援室を備えました。

一時預かり保育室（定員10人）は、鶴岡市・三川町・庄内町に住所があり保護者の就労や研修、通院、リフレッシュ等で保育園に入園していない就学前の児童が対象で、里帰り出産での利用も可能です。

病児保育室（定員3人）は、症状の急変がみられない病気や病気が回復にあって自宅で安静必要な3か月から小学校6年生までの児童が対象です。

発達支援室では発達に課題を抱える子どもへの障がいの特性に配慮した支援を行います。

